資 料 2

○学年 ○○科　学習指導案

単元･題材名 （授業名）		生　　徒	○○科○年生徒○名
		場　　所	○○科○年教室
日　　時	平成○年○月○○日(○)○校時	指 導 者	T1:　T2:　T3:

1　授業のねらい

（単元の目標）

・～～～～～～～

・～～～～～～～

（本時の目標）

・～～～～～～～

・～～～～～～～

2　生徒について

・～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

・～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

・～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

学習集団の実態や特徴を箇条書き

3　指導計画

第１回　○月○日　：　前時の復習、○○を用いた△△の学習

第２回　○月○日　：　○○を用いた△△の学習２回目（本時）

第３回　○月○日　：

この程度の概要を記す

4　本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 ○分	・～～～	・～～～～～～	・～～～～～～～ ＜協同学習の要素や配慮事項＞	
展開 ○分	・～～～	・～～～～～～	・～～～～～～～ ＜協同学習の要素や配慮事項＞	
整理 ○分	・～～～	・～～～～～～	・～～～～～～～ ＜協同学習の要素や配慮事項＞	

５　指導上の工夫

①　互恵的な相互依存関係

・・・・・・・・・・・・・・・・

②　対面的なやりとり

・・・・・・・・・・・・・・・・

③　個人としての責任

・・・・・・・・・・・・・・・・

④　協同学習スキル

・・・・・・・・・・・・・・・・

⑤　チームの振り返り

・・・・・・・・・・・・・・・・

協同学習の５要素それぞれは、どのような意図でどのような活動として盛り込んだのかを説明する。

６　指導の効果

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

７　今後の課題

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

授業後に参観者からのアンケートをもらい、それも踏まえつつ授業者が授業を振り返って記述する。

６には、５要素を取り入れた活動に取り組ませたことによる具体的な生徒の変化・成長（キャリア発達の様子）を書く。

７には、５要素を取り入れたことで見られた生徒の課題、そこから考えられる５要素の取り入れ方（授業づくり）の改善・工夫（さらなる教育効果を上げるために考えられること）を書く。

この２項目が、事実上の授業の評価となる。

※ 授業を振り返って

授業全般を通して良かったところ、改善すべきところを記入する。

＜協同学習における配慮事項＞

単元、授業を構成する上での配慮事項

配慮①　生徒の特性を考慮し、学習課題につながりがあるよう連続的に構成し、同じ学習課題の設定と構成を単元の中でできるだけ繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。

配慮②　メンバーの遂行能力や数的処理能力、グループの人数などに配慮して、チームや個々人の達成目標（行動）を設定する。

→課題に対する学習の困難度が高い生徒が、周りの生徒の手助けで達成できそうな目標を設定する。

配慮③　生徒一人一人の「学び方の違い」を前提とした授業の進め方を考える。

例　○　ヒントカードやワークシートを自己選択させるなど、子どもの理解レベルに合わせた支援方法を準備する。
　　○　基本課題と発展課題を用意する。

チーム（グループ）に対する配慮事項

配慮④　チーム内の仲間関係に常に注意を払っておく。

例　○　チーム内の成績の悪いメンバーへの攻撃を回避する。一人一人が積極的にチームに貢献できるような目標設定を心がける。

配慮⑤　チームに同調することが強制されないように注意を払う。

例　○　意見がぶつかり合って、話し合って解決する過程を重視する。
　　○　相手の意見を尊重しながら自己主張する話し方を指導する。

配慮⑥　チームや個々人の目標達成までの遂行状況を逐次フィードバックする。

→チーム内の協力を促進するために、誰が手助けが必要なのかを見て分かるようにする。

例　○　体育の陸上競技の授業で自己ベストをクラス全員が更新することを目標にした授業では更新できた者は体操帽を赤、未達成の者は白とする。
　　○　黒板に生徒の名札カードを貼って、課題ができた人は右側に移す。
　　→「一人はみんなのため、みんなは一人のため。」の精神で

授業中の配慮事項

配慮⑦　協同学習スキルを実際に活用できるように指導場面を物理的に構造化する。

例　○　協同スキルを実施する相手を限定する。
　　○　立ち位置に足形のマークを貼る。
　　○　机の配置を話しやすいように向かい合わせる。
　　→生徒が関わりやすい物理的な環境を整える。

配慮⑧　生徒が互恵的相互依存関係を理解しているか、指導前と指導中に理解の状況を把握・確認する。

例　○　助け合ったり、教え合ったりして良いと伝えているのに、納得していないために行動化しないことがあれば、助け合ったり教え合ったりして良いことを確認する。

配慮⑨　生徒が思っていることや考えていることについて、的確に言えない場合には、望ましい言い方の例を代弁して話しかけ、その後、生徒自ら話すように促す。生徒同士のやり取りが成立するように配慮する。

配慮⑩　教師は生徒の学習の成果はもとより学習過程における努力をみとり、タイミング良く生徒に伝えてほめる。また、間違ったり失敗したりしたことを学習にとって重要なステップと捉え、それらを否定することなく認める。

配慮⑪　メンバー全員が達成感を感じられるほめ方を工夫する。

例　○　賞状一枚で班のメンバー全員が達成感を感じられる場合は１枚のみとする。
　　○　一人一人に渡された方が達成感が強いなら、人数分の賞状を用意する。
　　○　言葉による賞賛と承認が達成感を満たすなら、その方法を採用する。

その他、視覚的な配慮事項

配慮⑫　授業の始めに活動の全体像（流れ）を視覚的に示し、その授業で何をするかの見通しを生徒がもてるようにする。また、授業の進行に合わせて、いまどの部分を学んでいるか、どこで終わりか、終わったらどうするかを明示する。

配慮⑬　プロジェクターや大型テレビなどの ICT 機器やホワイトボードなどを活用して、授業のポイントを視覚的に分かりやすく提示する。

例　○　黒板には全体の流れを示し、大型テレビにはその時点で重要な事項を表示しておくことにより、作業の計画や必要な方略を見通しをもちやすくなる。
　　○　書いた文章や図などを修正しやすい教具（ホワイトボードなど）を活用する。

配慮⑭　授業展開に沿ったワークシートを用意し、視覚的な教材・教具や板書などと連動させて、生徒にとって分かりやすく、見て確認できるようにする。

配慮⑮　授業の流れに沿ってノートを書かせたり、書き込んだワークシートを貼付させたりすることでその時間のノートができあがるよう工夫し、情報を適切に整理してまとめることを促す。